

平成24年度病害虫発生予報第2号

平成24年5月1日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の本ぼでの発生量は平年並	±
	ヒメトビウンカ	やや多い	全域	前年の発生量はやや多い	+
	イネミスズウムシ	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	4月下旬現在、発生を確認していない(平年並) 5月の降水量は平年並	± ±
	赤かび病	平年並	全域	4月下旬現在、発生を確認していない(平年並) 5月の降水量は平年並	± ±

・防除対策

〔イネ・ヒメトビウンカ〕

前年の発生量が多かったほ場では、ほ場での発生に注意しましょう。ベストガード粒剤、アドマイヤー1粒剤などで防除しましょう。

・留意事項

コムギは赤かび病の防除適期を迎えています。本日発表の「ムギ類赤かび病情報第2号」を参考に防除を実施してください。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	3月の越年罹病葉率は平年並	±
	ミカンハダニ	平年並	全域	3月上旬の発生量はやや少ない 5月の気温はやや高い	- +
ナシ	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量はやや多い 4月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量は平年並	+ + ±
	アブラムシ類	やや多い	全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温はやや高い	± +
モモ	黒星病	やや多い	全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量は平年並	+ ±
	せん孔細菌病	やや多い	全域	前年の発生量はやや多い 4月下旬の発病枝率はやや高い 4月3日に強風を伴う降雨があった 5月の降水量は平年並	+ + + ±
	ナシヒメシクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	4月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	± -
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない 4月下旬現在、発生を確認していない(平年並) 5月の降水量は平年並	- ± ±
	べと病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	やや少ない	全域	前年秋の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並	- ±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	全域	越冬成虫密度は平年並 前年のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数は多い	± +

・ 防除対策

【ナシ・黒星病】

発病葉及び発病果は見つけ次第取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。インダーフロアブルやチオノックフロアブルなどで防除しましょう。

【ナシ・アブラムシ類】

アドマイヤー顆粒水和剤やスプラサイド水和剤などで防除しましょう。

〔モモ・黒星病〕

チオノックフロアブルやオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・せん孔細菌病〕

枝病斑は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。バリダシン液剤5やスターナ水和剤などで防除を徹底しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

カメムシ類は、20 以上で風が弱い夜に活動が活発になり、長距離の移動もするようになります。園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認しましょう。飛来を確認したら、ウメではダントツ水溶剤やアルバリンノスタークル顆粒水溶剤などで、モモ、ナシではアクタラ顆粒水溶剤やアルバリンノスタークル顆粒水溶剤などで防除しましょう。

・留意事項

ナシ黒星病は、一部のほ場ですでに葉での発生を確認しています。また、果そう基部での発生が多いほ場があります。今後、気象条件によっては発生の増加が予測されます。天気予報を参考に防除時期を逃さないように注意しましょう。

フェロモントラップによるナシヒメシメクイ越冬世代成虫の誘殺ピーク時期は、平年より10日程度遅れています。越冬世代成虫がウメやモモの葉に産卵し、第1世代幼虫は新梢の芯折れを引き起こします。芯折れを確認したら早めに切り取り、園外に持ち出し処分しましょう。

モモ灰星病による花腐れの発生が多いほ場があります。腐った花に病原菌の胞子が形成され伝染源になるので、見つけ次第除去し、適切に処分しましょう。

モモのカイガラムシ類の防除時期は、有効積算温度から計算すると昨年より2～3日早いと予測されます。防除適期を逃さないように注意しましょう。詳細は、本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参照してください。

ブドウベと病は今後降雨があると感染し発病するようになります。防除対策など詳しくは4月17日発表の「ブドウベと病情報第1号」を参照してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	多い	全域	4月下旬の発生量は多い 5月の降水量は平年並	+ ±
トマト (施設)	コナジラミ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	全域	4月下旬の発生量はやや多い	+
	ハダニ類	やや多い	全域	4月下旬の発生量はやや多い	+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	全域	4月下旬の発生量はやや多い	+
キュウリ (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

〔タマネギ・べと病〕

降雨で発生量が増加するので、降雨が予想される際は、収穫前日数に注意し、ランマンフロアブルやフェスティバルC水和剤などで防除しましょう。また、罹病株及び被害残さは次作の伝染源になるので、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

〔ナス（施設）・うどんこ病〕

被害部位は伝染源となるので、早期除去に努めましょう。パンチョTF顆粒水和剤やベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）・ハダニ類〕

スターマイトフロアブルやダニサラバフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

プレオフロアブルやアフーム乳剤などで防除しましょう。

・留意事項

ナスで天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの影響に注意して農薬を選定してください。

キュウリでミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）、トマトでタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）が発生しているほ場では、収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	アブラムシ類	平年並	全域	黄色水盤・黄色粘着トラップにおける誘殺数はやや少ない 5月の気温はやや高い	- +

・留意事項

キク（露地）では、親株床で白さび病の発生量が多いほ場があります。今後、降雨が続くと発生しやすくなります。採穂をする前には、防除を実施しましょう。多発すると防除が困難になるので、初期防除に努めましょう。また、気温の上昇に伴いアブラムシ類、ハダニ類が増加する時期になるので、親株床も含めて防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台4月27日発表）

特に注意を要する事項

期間のはじめは気温が高い見込みです。

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。週別の気温は、1週目（4月28日～5月4日）は高い確率70%、2週目は平年並の確率40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%
 〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%
 〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないように
 しましょう。
 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。